

氏 名 新原 邦江  
学位の種類 博士 (医学)  
学位記番号 乙第296号  
学位授与年月日 平成25年5月8日  
審査委員 主査 教授 中村 守彦  
副査 教授 山口 清次  
副査 教授 大平 明弘

## 論文審査の結果の要旨

小麦依存性運動誘発アナフィラキシー (Wheat-Dependent Exercise-induced Anaphylaxis: WDEIA) は、小麦摂取のみでは症状が見られず運動やアスピリンなどの二次的要因が加わることでより症状誘発に至る食物アレルギーの特殊型である。診断のゴールドスタンダードは小麦・運動・アスピリンの組み合わせによる負荷試験 (小麦運動アスピリン負荷試験) であるが、負荷量不十分に起因する偽陰性の問題がある。そこで申請者は、小麦運動アスピリン負荷試験時の血中グリアジン測定が負荷量の指標になると考え、特に負荷試験陰性の場合の偽陰性を検出する系の確立を目指した。問診からWDEIAが疑われた36名の患者全例に小麦運動アスピリン負荷試験を実施し、血中グリアジン濃度をELISA法により測定した。負荷試験により症状誘発された患者 (Group I) はWDEIAと確定診断した。負荷試験にて症状が誘発されなかった患者のうち、血中グリアジンが検出されなかった患者 (Group II) は負荷量不十分と判断し、再テストまたは小麦除去食・食後の運動制限にて1年間経過を観察した。また、負荷試験陰性者のうち、血中グリアジンが検出された患者 (Group III) は負荷量十分と判断し、通常食にて1年間経過を観察した。血清中 $\omega$ -5グリアジン特異的IgE抗体値を併せて最終判定したところ、36名中負荷試験陽性者17名をWDEIAと確定診断し、負荷試験陰性者19名のうち、血中グリアジンが検出されない10名をGroup II, 検出された9名をGroup IIIに分類した。その後の経過観察の結果、Group II患者10名のうち9名をWDEIAと診断した。残り1名は薬物アレルギーと判明した。Group III患者9名のうち8名はNon-WDEIAと診断し、残り1名は $\omega$ -5グリアジン特異的IgEが陽性であったことから WDEIAと診断した。これらの結果により、WDEIAの小麦運動アスピリン負荷試験時に血中グリアジン測定を組み合わせると、負荷試験にて症状が誘発されない患者のうち、負荷不十分による偽陰性患者と真の陰性患者を高率に判別できることが明らかになった。

以上より、本研究の成果は臨床的意義が大きく、学位授与に値すると判断した。